

課題名：石神の丘美術館屋外展示場における情報を活用した魅力向上の研究  
 研究代表者：ソフトウェア情報学部 教授 阿部昭博  
 課題提案者：岩手町立石神の丘美術館 齋藤桃子  
 研究メンバー：狩野徹(社会福祉学部)、齋藤桃子(石神の丘美術館)  
 技術キーワード：野外美術館、森林セラピー、来館者支援、ICT利活用

## ▼研究の概要(背景・目標)

<背景> 森林セラピー基地認定<sup>[1]</sup>によって、これまでよりも同美術館への来館目的や年齢層が多様化することが予想される。

<目的> 健康増進や癒しを求めて訪れる来館者への健康福祉面での情報支援の在り方について明らかにする。



石神の丘美術館の特徴と多様な来館者ニーズ

## ▼研究の内容(方法・経過)

1. 森林セラピー基地を有する他地域の情報発信の現状と課題を把握した。
2. 来館者へのアンケート調査を実施し、森林セラピーに対する認知度やニーズを分析した。
3. 心拍数を計測できるウェアラブルデバイスを用いたデモシステムを実証評価した。
4. 研修会を開催し、今後の森林セラピー活用と情報支援の在り方について検討した。



デモシステム



屋外展示場の森林セラピーロード®

## ▼研究の成果(結論・考察)

森林セラピー活用健康福祉面での情報支援の方向性について一定の知見を得た。

1. 森林セラピー基地全体の総合案内サイトを設け、その魅力や楽しみ方を広く発信する。
2. 健康増進型鑑賞支援ガイドシステムを導入し、来館者の多様なニーズや形態に対応する。
3. SNSを用いて、森林セラピーの活用方法や楽しみ方について地域で発信・共有する。



デモシステム体験会



森林セラピー活用研修会

## ▼おわりに(まとめ・今後の展開)

1. 本研究では、来館者の意向調査やウェアラブルデバイス活用に関するフィジビリティスタディ等を実施し、健康福祉面での情報支援の在り方について一定の知見を得た。
2. 施設運営側からの発信だけでは限界があるため、住民・行政も一体になって森林セラピー活用の可能性を探ってゆく取り組みが期待される。
3. 今後は、本研究の成果について段階的に実装へと繋げてゆきたい。

[1] 森林セラピー基地認定機関: 特定非営利活動法人森林セラピーソサエティ <http://www.fo-society.jp/therapy/>